

科 学 技 术 教 育 部

本研究における最終到達目標を「高度情報社会に対応できる心豊かで創造的な人間の育成」におき、それを支える三つの上位目標（Ⅰ～Ⅲ）及び12の下位目標（①～⑫）を設定し、図-1のように構造化した。この12の下位目標の達成状況を更に明確にするため、学校教育活動を通して育成できるものに視点をあて、達成された状況を5段階で評価した。実際には教師が、観察評価の尺度に用いる図-2の【評定尺度Ⅰ】と、生徒が自己評価の尺度に用いる図-3の【評定尺度Ⅱ】を作成し、授業実践前と事後との間の変容を比較した。

【Ⅲ】の下位目標

- ⑩情報科学の基礎を理解することができる
- ⑪情報手段の特徴をとらえることができる
- ⑫情報手段の基本的な操作能力を身につけることができる

情報手段の理解と操作能力の習得

高度情報社会に対応できる心豊かで創造的な人間育成

情報化社会の理解と認識の確立と

【Ⅱ】の下位目標

- ⑤情報を的確に伝達することができる
- ④新たな情報を創造することができる
- ③情報を主体的に処理することができる
- ②情報を主体的に選択することができる
- ①情報を主体的に収集することができる

情報の処理と創造力

【Ⅰ】の下位目標

- ⑥情報化社会の特徴を認識することができる
- ⑦情報化のものたらしめる影響を理解することができる
- ⑧情報の重要性を認識することができる
- ⑨情報に対して責任を持つことができる

情報化社会の理解と操作能力の習得

	5	必要な情報を主体的に収集することができる
	4	必要な情報をおおよそ収集することができる
下位目標 ①	3	必要な情報のある程度収集することができる
	2	必要な情報をおおむね収集することができない
	1	必要な情報を収集することができない
	5	必要な情報を主体的に選択することができる
	4	“ おおよそ “ “ “
下位目標 ②	3	“ ある程度 “ “ “
	2	“ あり “ “ “
	1	“ 選択することができない “ “

(以下と同様に、各下位目標の5段階＝状態層の部分だけ掲げる)

下位目標 ③	5	必要な情報を主体的に処理することができる
下位目標 ④	5	新たな情報を創造することができる
下位目標 ⑤	5	必要な情報を的確に伝達することができる
下位目標 ⑥	5	情報と社会とのかわかりを理解することができる
下位目標 ⑦	5	情報化の進展がもたらす影響を理解することができる
下位目標 ⑧	5	情報の重要性をとらえることができる。
下位目標 ⑨	5	情報に対するモラルをとらえることができる
下位目標 ⑩	5	情報科学の基礎を理解することができる
下位目標 ⑪	5	コンピュータの特徴をとらえることができる
下位目標 ⑫	5	コンピュータを活用することができる

- ① あなたは、何か分からないことがあったとき、そのための情報を自分から進んで収集していますか。(それぞれ段階の中から回答する)
- ② あなたは、収集したものの中から、必要なものを取り分けることができますか。
- ③ あなたは、調べたことがらを、分りやすい図や表はもとめていますか。
- ④ あなたは、何かを解決しようとするとき、いろいろな情報を基にして、新しいアイデアを思いつくことがありますか。
- ⑤ あなたは、情報を相手に分りやすく、的確に伝えることができますか。
- ⑥ あなたは、日常生活の中でコンピュータがますます身近なものになってくると思えますか。
- ⑦ あなたは、コンピュータの進歩が人間に及ぼすマナス面の影響を考えることがありますか。
- ⑧ あなたは、テレビや会話などに出て来る情報の価値や重要性について考えることがありますか。
- ⑨ あなたは、他人の作ったものを無断で使用したり、自分の出した情報による影響を考へたりするなど、迷惑を及ぼさない行動がとれますか。
- ⑩ あなたは、コンピュータの技術がいろいろな方面に利用されていることを知っていますか。
- ⑪ あなたは、日常生活の中でコンピュータを利用すると、生活がどのように変化するか知っていますか。
- ⑫ あなたは、コンピュータを使うことができますか。

(文青 峯島 和彦)